

## 幻となった

### 第二の童謡曲集



第二集の残した書き直した直治の曲目

昭和8(1933)年に刊行された「山中直治童謡曲集」に続き、第二集の刊行計画があり、10(1935)年3月に作詞者であり、友人でもあった成東町(現在の山武市)の斎藤信夫に宛てた手紙に「…童謡集の第二集を出版すべく只今清書中です…」と書かれていました。

島田は、古賀政男と組んで大ヒットした「丘を越えて」を始め、「キャンプ小唄」「月の浜辺」「窓に凭れて」「スキ一の唄」など次々に発表した昭和6(1931)年をピークに、16年に作詞家活動を休業するまで、作品数が次第に減少していったといわれていますが、8年発行の「山中直治童謡曲集」には、約半数の作品の作詞を手がけたものの、その2年後に準備されていた第二集には、ひとつも作品が見られないのは、どうしたことだったのでしょうか。

『青春の丘を越えて』詩人・島田芳文とその時代』の著書もある豊前市在住の松井義弘さんによれば「ちょうど昭和の始めごろ、島田は童謡から歌謡曲に転向した時期であることから、歌謡曲の仕事が多くなり、童謡は少なくなつたのではないでしようか」と推察します。



直治の几帳面さがわかる直筆の楽譜

第二集は、島田が参加していないものの、第一集に続き、山中の千葉師範時代の友人でもあった斎藤信夫や市原三郎のほか、島田同様に、野口雨情に師事した武内俊子や影響を受けた林柳波などが作詞を手がけています。

第二集用にと清書された直筆楽譜は、39曲分が確認されています。

定規を使って音符を書いたようで、大変きれいに書かれています。残念ながら直治の生前に出版されることなく、亡くなったあと半世紀以上、歴史の中に埋もれてしまっています。

※文中敬称略(4月1日号へつづく)

【参考資料】「よみがえる山中直治童謡の世界」野田市郷土博物館

## 3月の休日当番医

休日当番医での診療時間  
 外科・産婦人科=9時~22時(ただし16時~19時は除く)  
 内科=9時~16時(19時~22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
7日(日)	野田中央病院(☎7122-6161)	江医院(☎7124-2831)	小張総合病院(☎7124-6666)
14日(日)	東葛クリニック野田(☎7124-3101)	尾崎台クリニック(☎7127-6677)	アイレディースクリニック(☎7137-7661)
21日(日)	須藤整形外科(☎7122-1221)	野田病院(☎7127-3200)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
22日(月)	キッコマン総合病院(☎7123-5911)	あらい内科クリニック(☎7122-5723)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
28日(日)	梅郷整形外科クリニック(☎7125-2011)	山懸医院(☎7125-3741)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認してください。

### 急病センター

☎7125-1188

▼内科(小児科)=19時~22時(毎日)  
 ▼歯科診療=9時~12時(休日)

▼「倉敷藤花」と初めて聞いて「ずいぶん風流な名前の方だなあ」と思っていました。正式には「大山名人杯倉敷藤花戦」——つまり、女流棋士戦のタイトルのひとつでした▼大山康晴十五世名人の出身地倉敷市で創設され、市の花が藤であることから命名されたそうです▼1月31日の関根名人記念館で清水市代女流名人に挑んだのは、高校3年生の里見香奈倉敷藤花▼結果は8ページのトピックスに書きましたが、関根名人ゆかりの地での両者の熱戦は、意義あるものでした(き)

編集後記

市の木

けやき

市の花

つつじ

市の鳥

ひばり

人口と世帯(22.2.1現在)●人口=157,249人(+18) 男=78,979人(+8) 女=78,270人(+10) ●世帯数=61,164世帯(+57) ●市の面積=103.54km<sup>2</sup>  
 市報のだ 第1063号 平成22年3月1日号/発行=野田市(〒278-8550 野田市鶴奉7番地の1・☎@7125-1111)/編集=企画財政部秘書広報課